

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>未来の社会をリードする人材を育成することで地域の誇りとなる学校をめざす。</p> <p>① 自立心と進取の気概を育成する</p> <p>② フェアなルール感覚を育成する</p> <p>③ 多文化共生・国際理解教育を推進する</p> <p>④ 科学的・論理的に考え、行動する人材を育成する</p>

2 中期的目標

<p>1 確かな学力の育成</p> <p>(1) 自分の考えをまとめたり、発表したりする機会の多い授業づくりを推進する。</p> <p>ア 説明・発表・討論等を通じて、「思考力・判断力・表現力等」を育成するような「言語活動の展開」をめざす。</p> <p>イ グループ活動、ペアワークなどを取り入れ、学習意欲を高めることに尽力する。</p> <p>ウ 2020 年度入試から始まる新しい時代に備え、積極的に研修に努め、新たな指導法と評価法を完成させる。</p> <p>(2) 「総合的な学習の時間」に展開している「課題研究」を充実させ、「総合的な探究の時間」の目標達成をめざす。</p> <p>(3) 国際教養科の教育活動の実績に基づき、実践的な英語教育と国際理解教育を一層推進する。</p> <p>ア GTEC を全員受験とし、英検や TOEFL、TOEIC 等の受験を勧め、資格試験合格率アップをめざす(新しい大学入試に備える)。</p> <p>イ 全員参加の海外修学旅行の継続、英語圏およびアジア圏への研修の充実、海外からの訪問者の受入れを従来通り積極的に行う。</p> <p>(4) この数年間に整備した ICT や教育産業のコンテンツを活用するより質の高い授業と講習を実施する。</p> <p>(5) 希望進路達成率(第 2 希望も含めて)85%以上をめざす。</p> <p>(6) 2020 年度入試から実施される、「大学入学共通テスト」を見据え、e ポートフォリオの使用を前向きに検討するとともに新大学入試制度に関する情報収集と研究を行い、日々の授業に反映させる。</p> <p>ア アクティブラーニング型の指導方法を積極的に取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」を生徒に身につけさせる。</p> <p>イ 中教審答申には、「パフォーマンス評価」や「ポートフォリオ評価」が例示され、達成度の基準を示す「ルーブリック」が紹介されている。ペーパーテストによらないこのような新しい評価を徐々に生徒に示していく。</p> <p>2 日常の中で自律し、社会の中で自立できる人材の育成</p> <p>(1) クラブ活動加入率の増加をめざし、各クラブが成果を出せるよう努力する。積極的にクラブ支援を行う。部活動加入率 80%をめざす。</p> <p>(2) ユネスコスクールとして国際交流と地域交流を推進する。「人権」、「国際理解(協力)」、「ESD」等の価値観に関する教育を通じて、グローバルな視野をもった人材を育成する。</p> <p>(3) 生徒会活動の活発化を図り、全生徒の自律心と自立心を高める。</p> <p>3 生徒の希望をかなえる学校づくり</p> <p>(1) 日々の学校生活が楽しく充実したものであり、キャリア教育によって将来が展望できる、満足度の高い学校生活を送れるようにする。</p> <p>(2) 遅刻・服装指導等の継続、清潔できれいな学校作り、メディアリテラシー教育を進める。自宅学習時間の確保を考える。</p> <p>(3) 情報発信を重要視する。</p> <p>(4) 生徒が自主的に行動できるノークラブデーを有効活用するとともに、教職員の働き方改革も推進する。</p>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>1 確かな学力の育成</p> <p>授業において、知識を活用して表現する活動については授業アンケートの肯定的評価が第 1 回で 81.6%、第 2 回で 82.0%。</p> <p>キャリア教育の観点では内容も自己診断の項目では肯定的評価が 59.4%で目標に達しなかった。生徒の実態をよりとらえ、内容の充実を図る。</p> <p>国際交流ではグアム修学旅行、豪州研修、カンボジアスタディツアー、シカゴ高校生徒の交流、韓国高校生徒の交流など様々な活動を行うことができた。</p> <p>英語教育では CEFR の目標について、1 年生の段階で B1 以上が 4.5%、A2 が 68.6%、A1 が 26.8%である程度の成果が見られた(GTEC の結果)。</p> <p>2 日常の中で自律し、社会の中で自立できる人材の育成</p> <p>ユネスコスクールとしていろいろな活動に取り組んだ。国際理解教育に関するアンケートの肯定的回答は保護者が 85.6%、生徒は 88.4%と一定の評価を得た。これからは地域と連携した活動などをより全校レベルに広げていくことが必要。</p> <p>生徒会は積極的に学校行事(体育祭やその他のイベントなど)の中心となっている。生徒会活動への生徒の肯定的評価は 85.7%と目標値を上回った。</p> <p>3 生徒の希望をかなえる学校づくり</p> <p>「学校へ行くのが楽しい」という項目に対する生徒の肯定的回答は 82.2%と一定の数値をあげているが、目標値には達していない。保護者の肯定的回答(「子どもは学校に楽しく通っている」)は 89.9%とさらに高い数値。生徒に達成感を感じさせ、自己肯定感を高めるなどして学校生活のさらなる充実をめざし、満足感を高めたい。</p> <p>超勤月平均が目標値を上回っている(12 月現在)。月ごとの分析を行い、業務の改善を進めるなど縮減に努めたい。</p>	<p><u>第 1 回(R1 年 5 月 18 日[土]) H31 年度学校経営計画について</u></p> <p>わかる授業を正面に出すのに敬意。さらに一歩進めることは大事。様々な取組みに継続して取り組んでいる。大変だろうがチャレンジを続けてほしい。帰国・渡日生徒の自己実現としての配慮があり、生徒の個性を伸ばしている。外国にルーツがある生徒が増えていることから、これまでどおり多文化共生の観点を大切にしながら、校外・校内に関わらず教育活動に取り組んでほしい。人権意識を持った生徒の教育にも繋がるのでお願いしたい。</p> <p>豪華な行事が目立つことや進路実績で学校の存在感を示すことが多いなかで、社会的な問題を佐野高生徒の問題に置き換えることは良い。</p> <p>日常生活や生徒の活躍、地域の良さなど何気ない発想や行動を拾い上げることは大事。教員の、生徒への理解、生徒との距離感が良い。朝の立ち当番は最近他校では少ない。遅刻件数の多さは気になる。</p> <p><u>第 2 回(R1 年 11 月 16 日[土]) H31 年度学校経営計画進捗状況について</u></p> <p>生徒の活動やパフォーマンスにおける学校評価が増えてきている。</p> <p>授業アンケートではここ数年で評価が上がってきている。</p> <p>ESD をきっちりやっている印象。ESD を土台に SDGs があるという位置づけが大事。数字でアピールするのではなく、地域からも認められるというような生徒を通じて地域ともつながる循環を大切にしてもらいたい。継続的に活動していくことが重要。</p> <p>ユネスコスクールとして先のことを見据えた教育活動をしている。空港が近く、海外の玄関口として泉佐野市にある佐野高校が受入れ活動や外国との交流等を地域のためにもこれから積極的に進めてほしい。</p> <p>なぜ国際文化科になるのかが肝心。地域とのつながりやボランティアも大事だが、数値として見えやすいものを指標にする必要がある。</p> <p>関西空港も近くにあり、海外からダイレクトで入学してくる子ども多いと思われる。帰国生等への配慮も忘れずに続けてもらいたい。</p> <p><u>第 3 回(R2 年 2 月 1 日[土]) R1 年度学校評価(案)、R2 年度学校経営計画(案)について</u></p> <p>ユネスコスクールとしての取組みを学校全体に進めてほしい。</p> <p>学びのある、成長のある学校だと感じた。</p> <p>(自己評価にかかわる厳しい数字を見て)先生の謙虚な姿勢が良い。</p> <p>国際教育の一環で英語の 4 技能の育成は重要。</p> <p>生徒会活動などは、社会に出てから役に立つのではないかと。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 授業改革 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、自分の考えをまとめたり、発表したりする機会の多い授業づくりを推進する。	(1) ア 説明・発表・討論等を盛り込んだ授業を行う イ グループ活動、ペアワークなどを取り入れ、学習意欲を高める。 ウ 新学習指導要領の実施と新しい入試を見据えたカリキュラムの作成 エ 授業において生徒の思考力や表現力を促すさまざまな工夫を行う。	(1) ア 全教科で1回以上校内公開授業を行う。 イ 学校教育自己診断「考えをまとめたり、発表する機会がある」65%以上(62.9%) ウ カリキュラム検討委員会を設置し新カリキュラムの完成をめざす エ 授業アンケート「6 授業では自ら考え、表現(記述、発表、作品、パフォーマンスなど)する活動が多く取り入れられている」の肯定的評価70%以上。	(1) ア 初任者や英語教育推進中核教員研修の一環としてなど実施したが、全体としては不十分() イ 肯定的評価が74.5%() ウ ほぼ新カリキュラム案を完成し、現在各教科において細部について調整中() エ 授業アンケートでは肯定的評価が81.6%(1回目)82.0%(2回目)()
	(2) キャリア教育と課題研究	(2) ア 「キャリアスタディーズ(CS)」の内容を精選する。 イ 「総合的な探究の時間」の目標を見据えて「課題研究」に取り組む。	(2) ア 新たなCS年間スケジュールを文書化する。 イ 学校教育自己診断「進路選択を行う時にCSは役に立つと思う」68%(65.7%)	(2) ア 今年度の取組みをもとに一定のものを作成したが、内容面、校内全体への周知の面ではこれから() イ 肯定的評価が59.4%。より生徒のニーズをとらえて指導していく必要がある()
	(3) 英語教育と国際教育	(3) ア GTECの全員受験を推進する イ 英検、TOIEC、TOEFL等の受験を奨励する。 ウ 海外修学旅行、英語圏への生徒派遣・アジア圏との交流、海外からの訪問者受入れ事業を実施する。	(3) ア 卒業までにCEFR B1以上 20% A2 80% イ 英語科で外部英語試験に向けたサポートをする。 ウ 海外修学旅行、英語圏への研修、アジアとの交流、海外訪問者受入れ事業を実施する。	(3) ア 平成31年2月実施分(1年生)ではB1以上が4.5%、A2が68.6%、A1が26.8%。 GTECは平成31年から導入。今後、成果検証を継続していく。 イ 6月に校内で希望者に対して英検を実施。186人が受験(準2級53人、2級114人、準1級19人)() ウ グラム修学旅行(10月2年希望者) 豪州多文化理解・語学研修(7~8月19人) カンボジアスタディツアー(12月11人) ・シカゴ高校生の1日訪問(4月) ・ニュージーランド日本語教員の1日訪問(10月) ・韓国高校生との交流(1月)()
	(4) ICT等の活用	(4) ア ICTや教育産業のコンテンツを活用する、より質の高い授業と講習を実施する。 イ 1年生の課題研究で生徒にICT機器を活用させる。	(4) ア 座学の授業の40%(37.9%)以上でICTを活用する。 イ 1年生全員が課題研究でICTを活用する。	(4) ア 座学の授業におけるICTの活用率は約57.6%であり、目標を上回っている。今後は、具体的な活用内容について深めたい() イ 課題研究において情報収集、情報処理、発表資料などについてICTを活用した()
	(5) 希望進路達成率	(5) 希望進路達成率(第2希望含む)を向上させる。	(5) 希望進路達成率(第2希望含む)70%以上。(3年67%)	(5) 74.3%()
	(6) 新学習指導要領や中教審答申に対応した授業や評価の実施	(6) e-ポートフォリオの導入を前向きに検討する。(アクティブラーニングの推進については(1)ア イ に記す)	(6) 企画会議、運営委員会でe-ポートフォリオの導入を検討する。	(6) 必要に応じて入力できる状況を整えた()

府立佐野高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 日常の中で自律し、社会の中で自立できる人材の育成</p>	<p>(1) クラブ加入率の増加</p> <p>(2) ユネスコスクールの活動</p> <p>(3) 生徒会種々の活発化</p>	<p>(1) クラブ加入率の増加をめざし、各クラブが成果を出せるよう活性化委員会や後援会が支援する。年高途中でも入部しやすい環境づくりに取り組む。</p> <p>(2)</p> <p>ア ユネスコスクールとして、国内外に情報発信を行うとともに、校内においてもその取組みが共有財産になるようにする。</p> <p>イ 泉佐野市が主催する様々な地域イベントにユネスコスクールとして関わる。</p> <p>(3)</p> <p>ア 限られた条件を最大限に生かして生徒会活動を活発化させる。</p> <p>イ 近隣支援学校や地域等との交流などに取り組めるようにする。</p>	<p>(1) クラブ加入率 78% (75.2%)</p> <p>(2)</p> <p>ア 国際理解教育等への肯定感 学校教育自己診断 80%以上維持 (81.9%)</p> <p>イ 全国規模、地域規模の発表会やコンテストに1回以上参加。</p> <p>(3)</p> <p>ア、イ 生徒会種々の肯定感85%を目標とする。 学校教育自己診断「生徒会種々の活発である。」 (81.3%)</p>	<p>(1) クラブ加入率 78% ()</p> <p>(2)</p> <p>ア 国際理解教育に関する学校教育自己診断の肯定的評価が 88.4%であり、昨年度より上昇している ()</p> <p>イ 近隣の海岸清掃活動とりんくう花火大会へのスタッフ参加、泉佐野市の外国人防災訓練への協力、One World Festival for Youth に参加 ()</p> <p>(3)</p> <p>ア 生徒会活動について 85.7%の生徒が肯定的に回答している ()</p> <p>イ 23人の生徒会執行部のメンバーが中心となり、校内の行事や地域との様々な交流を推進している ()</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 生徒の希望をかなえる学校づくり</p>	<p>(1) 満足度の高い学校生活</p> <p>(2) 遅刻・服装指導等の継続、清潔で美しい学校作り、メディアリテラシー教育推進、自宅学習時間の確保</p> <p>(3) 情報発信を重要視</p> <p>(4) ノークラブデー活用と働き方改革</p>	<p>(1) 従来からの学校生活に対する高い満足度をより向上させる。</p> <p>(2)</p> <p>ア 遅刻指導を継続し、さらに時間を守る意識を高め、生徒の生活習慣を向上させる。</p> <p>イ 高校1年生の出身中学校訪問を含め、中学生から「あこがられる」高校生としてのあり方を追求する。(ボランティアや出前授業など)</p> <p>ウ メディアリテラシー教育 (SNS に関する指導) を計画的に行う。</p> <p>(3)</p> <p>ア 全員で広報する体制をさらに強化する。</p> <p>イ 広報スタイルをさらにブラッシュアップし、広報媒体 (チラシ・リーフレット、WEB) に継続的に工夫を加える。</p> <p>ウ 文書配布、ホームページ、メールの活用促進</p> <p>(4) ノークラブデーと働き方改革の理解を深め、実践につなぐ。</p>	<p>(1) 学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」85%をめざす。(83.2%)</p> <p>(2)</p> <p>ア 年間総遅回数2,000件以内を目標とする。(2,415件)</p> <p>イ 高校1年生の出身中学校訪問を行う。</p> <p>ウ 各学期の終業式に SNS 活用に関する生徒指導課からの講話を行うとともに、外部講師による講演を実施する。</p> <p>(3)</p> <p>学校説明会や体験授業の参加者数の目標をのべ1,500人以上とする。 (H30: 校内 1,539人 校外 約 278人)</p> <p>(4) 職員会議等機会あるごとに啓発を行う。 超勤月平均 30H (33.5H)</p>	<p>(1) 82.2%が肯定的意見を示している。目標にはやや届かない ()</p> <p>(2)</p> <p>ア 年間総遅回数 1,875 件 (2月29日現在) ()</p> <p>イ 42人の生徒が33校の出身中学校に訪問した ()</p> <p>ウ 終業式での注意喚起を生徒指導課より行い、それ以外の学年集会などでも随時実施。また、学期末には人権教育室から注意喚起のプリントを配付して啓発した。外部講師による生徒向け講演会を4月に実施した ()</p> <p>(3) 8月のオープンスクール(2日間)では生徒、保護者合わせて715人が参加した。9回実施した校外の各種学校説明会では生徒、保護者合わせて431人の参加があった。11月に実施したオープンスクールの参加者は生徒、保護者合わせて341人、1月の学校説明会では72人が参加した。合計1,559人 ()</p> <p>(4) 職員会議や連絡会などで啓発を行った。 超勤月平均 32.4H (2月現在) ()</p>